

令和元年6月25日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K04258

研究課題名(和文) 愛着の内的作業モデルの潜在的側面が潜在的情動制御に及ぼす影響

研究課題名(英文) Effects of implicit aspects of internal working model in attachment on implicit emotion regulation

研究代表者

上淵 寿 (Uebuchi, Hisashi)

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

研究者番号：20292998

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：人が養育者との関係から作り上げた愛着の概念には、パーソナリティの基礎となり、意識しにくいすなわち潜在的な、内的作業モデルがある。これは人の情動に影響を与えることで、人間関係を変化させることが示されてきた。だが情動のコントロール(情動制御)には、意識しにくい制御、つまり潜在的情動制御もある。

本研究では、この潜在的な愛着の内的作業モデルと、潜在的な情動制御の関係を明らかにすることを目的とした。

実験によって、潜在的な愛着の内の他人を避ける傾向(親密性回避)が、潜在的な他人との親密な関係に対する不安(関係不安)を高める可能性が示唆された。これは、潜在的な愛着と潜在的な情動制御の関係を示唆して

研究成果の学術的意義や社会的意義

人のもつ自分や他人についての概念や、人が行う心のプロセスには、自分で意識しにくい面がある。こうした心の潜在的な側面を、パーソナリティの基礎となる内的作業モデルという概念に絞り、それと感情のコントロールである、情動制御の意識しにくい面との関係を明らかにしたことで、パーソナリティが感情に及ぼす影響に新たな視点を投げかけることができた。

これは、人の行動や感情の変化には、自分で意識しにくい面があり、そのために気づかずに社会生活をうまく営める人もいれば、そうではない人もいることを示唆している。今後は、この意識しにくい面にどのように関わることができるかを検討することが必要であろう。

研究成果の概要(英文)：In attachment conception by made relationships with caregivers, implicit internal working model (IWM) becomes base of personality. It found that IWM had effects on emotional regulation (ER). Then, ER has implicit aspects.

This study's purpose was verifying the relationships between implicit IWM and implicit ER.

By experiments, it suggested that implicit avoidance of IWM enhanced interpersonal anxiety. In other word, implicit IWM had relations with implicit ER.

研究分野：社会心理学

キーワード：愛着 内的作業モデル 潜在性 情動制御

## 1. 研究開始当初の背景

潜在的な愛着の内的作業モデルを測定する指標を開発したが、それがどのような心理変数と関係するのかについては明らかになっていなかった。愛着は従来、情動制御と関連があるとされ、潜在的な情動制御の研究も行われている。しかし、愛着と情動制御の潜在的側面同士の関係については、研究がなかった。また、比較のために顕在的な愛着の内的作業モデルが顕在的な情動制御に及ぼす影響も調べる必要があると考えられた。

## 2. 研究の目的

潜在的な愛着の内的作業モデルが潜在的な情動制御に及ぼす影響について検討することを目的とした。

## 3. 研究の方法

潜在的な愛着の内的作業モデルを測定するため、コンピュータのモニタ画面に提示される語彙のカテゴリー判別によって測定する GNAT を用いた。GNAT とは、社会的認知研究でよく用いられる IAT (Implicit Association Task) と似ているが、異なる点が存在する。それは IAT ではモニタ中央画面に提示される語が、モニタ上方に示される 2 つのカテゴリーのいずれかに当てはまることを、それぞれカテゴリーに割り当てたキーを押すことで調べるのに対して、GNAT では、カテゴリーに当てはまらない場合は、キーを一切押さないことで、そのカテゴリーに含まれるか否かを調べることができることである。一方、潜在的な情動制御を測定するために、語彙判断課題を用いて、愛着に関連する語彙への正誤判断の反応時間を調べ、そこから間接的に情動が促進、あるいは抑制されているかを調べた。

また、新たな測定指標の開発も GNAT によって行った。

顕在的な愛着の内的作業モデルが顕在的な情動制御に及ぼす影響については、大学生を対象として、愛着の内的作業モデルを信頼性の高い自己報告尺度で測定した。この指標以外に、キャリア自己効力を感情や行動へのコントロールの変数として、さらに大学生のキャリア探索行動を自己報告尺度によって測定した。

## 4. 研究成果

顕在的な愛着の内的作業モデルが顕在的な情動制御に及ぼす影響については、友人との愛着と、母親との愛着が、キャリア自己効力を媒介として、大学生のキャリア探索行動に影響するという知見を得られた。

これは、欧米ではよく知られた知見だが、日本ではほとんど実証されていない結果を得ることができた。

この研究によって、キャリア形成において、幼少期からの母親や仲間との親密な関係が影響を及ぼしていることが示された。これは、重要な他者との親密な関係が、結果として、個人の安定的な行動目標やその目標に向けての自己効力を高めることに寄与していることに他ならない。キャリア関連の自己効力が高いことによって、キャリア探索行動が動機づけられたのは自然なことであろう。こうした知見から、幼少期からの親密な他者との愛着の安定性が、その後の人生の道を切り開く、すなわちキャリアを自ら探求し、道を切り開いていくのに役立っていることは、単純な適応だけではなく、愛着が人の生涯発達の多様化に大きな役割を果たしていることを裏付けるものとなっていると考えられる。

また、情動経験等に影響する潜在的な自己制御システムを測定する方法を開発した。具体的には、利得の存在に接近し、利得の不在を回避しようとする自己制御システムである「促進焦点(promotion focus)」と、損失の不在に接近し、損失の存在を回避しようとする自己制御システムである「予防焦点(prevention focus)」の 2 つの自己制御システムの潜在的測定方法を開発することができた。愛着の内的作業モデルは、一般に「関係不安」と「親密性回避」の 2 つからなると考えられているが、前者は促進焦点に類似し、後者は予防焦点に類似している。このため、自己制御システムとしての内的作業モデルの測定に近づくことができた。

さらに、親密性回避傾向が高い人は、自己の属性語のプライムを提示されると、語彙判断課題の内、関係不安関連語に対する反応時間が遅くなる傾向があることが示された。この結果は、親密性回避傾向が高い人は、自己肯定のための確認をする傾向が高く、そのために関係不安が高められるという上方制御、すなわち負の情動を高める方向での情動制御を行っている可能性を示している。

ゆえに、愛着の潜在的内的作業モデルから潜在的な負の情動の制御への影響について、その一部ではあるが、明らかにすることができた。これらの関係は、従来の研究ではまったく得られていない知見である。

今後は、より多様な研究を行う必要がある。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件)

坂井亮紀・上淵寿 潜在的な自己制御システムを測定する Go/No-go Association Task の作成 東京学芸大学紀要 総合教育科学系 168 巻 2017 年 pp. 137-155 (査読無)

上淵 寿・松村 大希・敦澤 彩香 友人との学習が動機づけ調整及び学習パフォーマンスに与える影響 日本教育工学会論文誌 40 巻 2016 年 pp. 29-32 (査読有)

〔学会発表〕(計 3 件)

Hisashi Uebuchi 2018 What Meaning Is That Self-Prime Delayed Responses of Lexical Decision Task of Attachments' Words? 30th Association for Psychological Science Annual Convention

Hisashi Uebuchi, Risa Tahara, May, Takahashi, Taiki, Matsumura, Yuri Kawamura, Marie Uebuchi 2017 Relationships Among Attachment Career Self-Efficacy and Career Exploration in Japanese. Association for Psychological Science

Hisashi Uebuchi, Miki Obuchi, Marie Uebuchi 2017 Schadenfreude: Effects of just world beliefs and narcissism. The 2017 International Convention of Psychological Science

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。